



大曲バイパス 4車線化事業

新玉川橋



国土交通省東北地方整備局
湯沢河川国道事務所



上部工工事の流れ



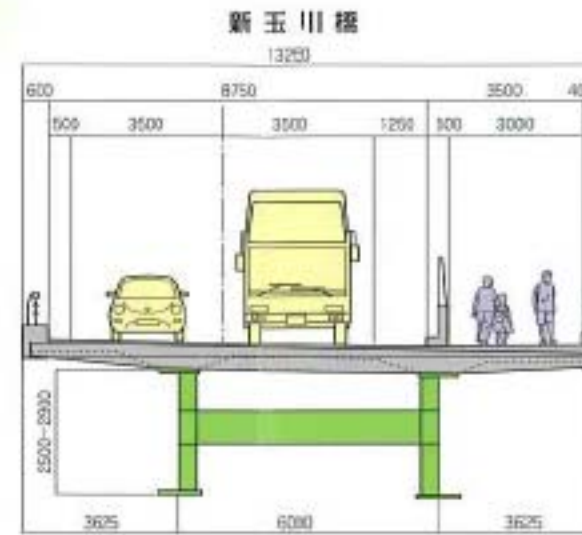
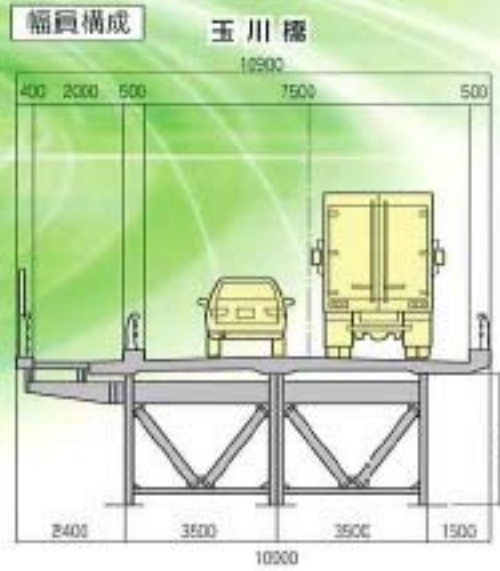
工事工程表

工程	日付	平成15年												平成16年												平成17年												平成18年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
原 観 検 討		[Pink bars]																																						
地 盤 調 査		[Yellow bars]																																						
設 計		[Green bars]																																						
下 部 工		[Purple bar]																																						
桁 工 場 製 作														[Blue bars]																										
桁 工 場 塗 装																										[Light Blue bars]														
仮 設 工																										[Yellow bars]														
架 設 工																										[Green bars]														
床 版 工																										[Orange bars]														
橋 梁 附 属 物 工																																						[Pink bars]		
竣 工 付 け																																						[Purple bar]		

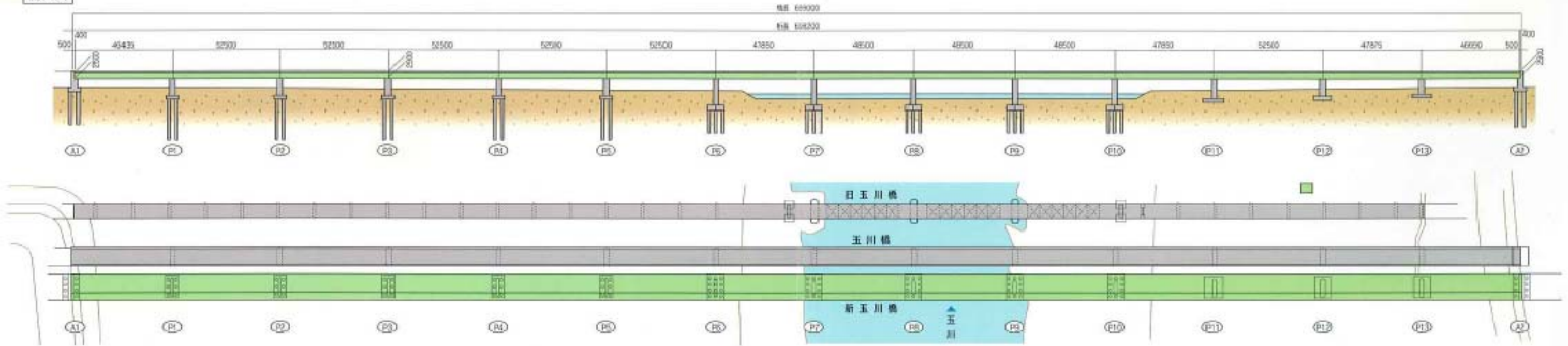
可能性に満ちたふるさとへの未来への架け橋

工事の概要

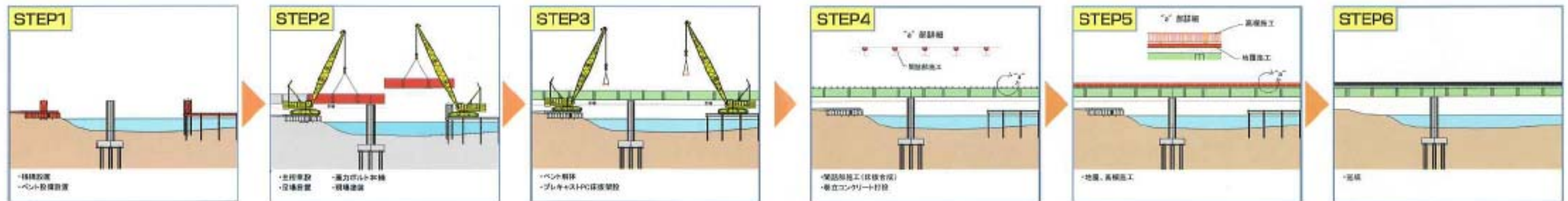
設計条件	
道路規格	第3種 第1級 設計速度80km/h
形式	14径鋼管連続2主鋼桁橋(リブ付きプレキャストPCRC)
設計荷重	B活荷重
橋長	699,000mm
支間長	46,435+52,500+47,850+32,485,500 +47,850+52,500+47,875+46,690m
有効幅員	車道8,750m 歩道3,000m
平面線形	A=250-R=∞
適用示方書	道路橋示方書(H14)



側面図



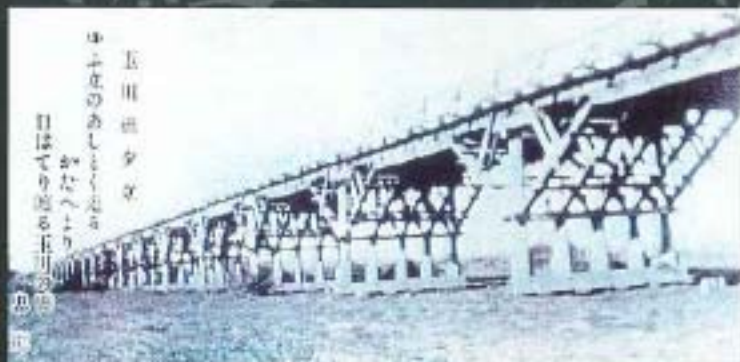
桁・床版架設の流れ



玉川橋の歴史



明治期:運搬業とともに活況を見せた。



木橋

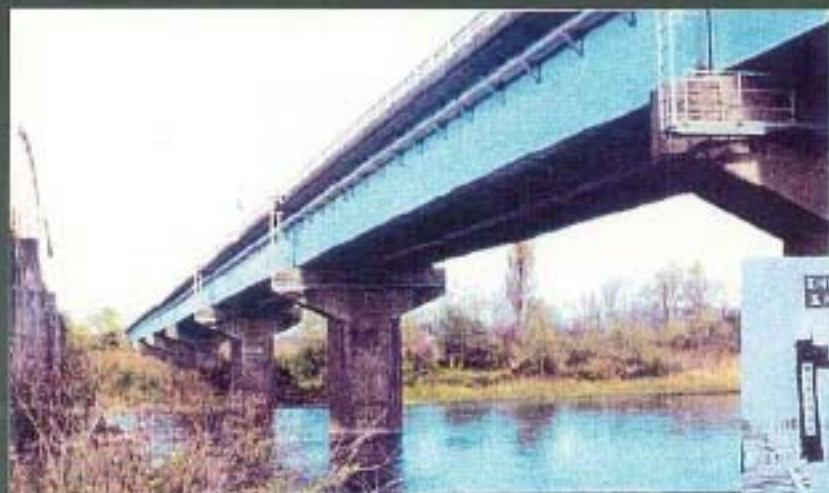
明治28年11月24日、明治天皇東北巡幸の際に架けられた仮橋に変わり、日本一長い木橋として生まれ変わる。
(橋長およそ660m)



昭和7年間通式

旧橋

昭和7年にコンクリート橋およびワーレントラス橋(流水9m)に掛け替えされた。
当時は全国に誇るモダンな永久橋と呼ばれた。
(橋長およそ532m)

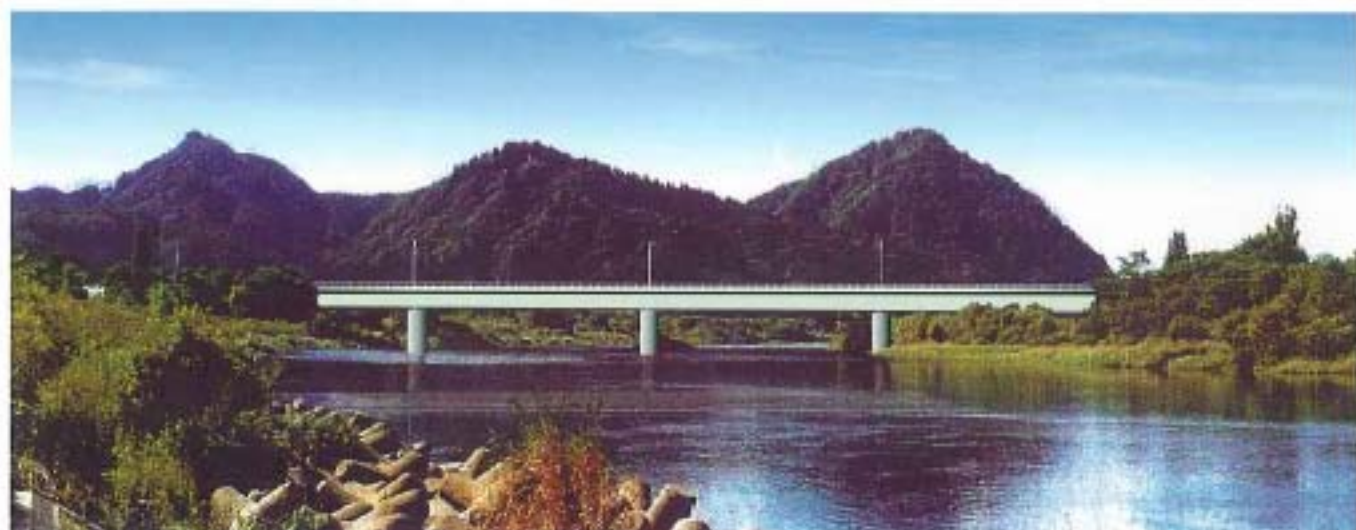


昭和47年間通式

現橋

昭和47年に県内の基幹路線として国道13号バイパス玉川橋が旧橋と並列に架橋された。(橋長およそ652m)





景観に対する取り組み

新玉川橋が施工される箇所は、神宮寺岳や伊豆山、姫神山などの山々が背景となる雄物川と玉川が合流する付近の雄大な景観地です。この中で伊豆山は、古くから伝わる行事「川を渡るぼんでん」の中ではぼんでんを奉納する神聖な山と伝えられています。

また、秋田を訪れた20世紀を代表するドイツの建築家であるブルーノ・タウト氏は、氏の著書「日本美の再発見」の中で、橋上から見られる神宮寺岳などの山々を背景にした月夜の景色を「これほど美しい絵は見たことがない」と絶賛しています。

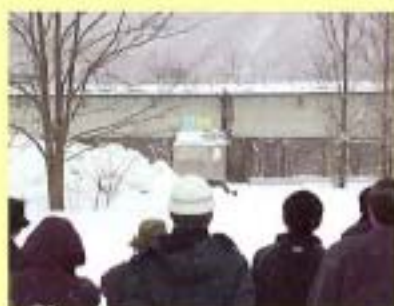
さらに、玉川には明治時代に日本一長い木橋が架けられており、これが現在の玉川橋に引き継がれ、地域の発展に寄与してきました(新玉川橋は県内最長)。

このように水平方向に広がりのある橋が原風景となっているのが架橋地点です。

このことから、新玉川橋の設計にあたっては、地域のシンボルの景観と、おおらかな自然を有する現地環境に対し、

地域の特徴や景観の整合性を確保するために、学識経験者・地元有識者等の委員構成による「玉川橋景観検討委員会(委員長:東京大学工学部土木工学科藤原教授)」を設置し、幅広い意見を採り入れ、橋梁景観設計に反映させています。

委員会では、人々の心に残る「原風景」である自然環境を主とし、添景として調和する橋梁景観の実現を整備方針として考え、穏やかな佇まいで風景を大切に、時間を超える造形と合理性を表現した橋梁とする事で検討が進められました。



国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

〒012-0862 秋田県湯沢市関口字上寺沢64-2
TEL 0183-73-3174 FAX 0183-73-3179
ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/>
E-mail yuzawa@thr.mlit.go.jp



古紙配合率100%の再生紙と、米国大豆油検査が認定した環境にやさしい大豆油インキを使用しています。